第１部

環境基本計画の進捗状況

第１部　環境基本計画の進捗状況

１　環境基本計画の概要

「福井県環境基本計画」は、平成7年3月に制定した「福井県環境基本条例」における「豊かで美しい環境の恵沢の享受と継承」、「環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会の構築」、「地球環境保全の推進」の3つの基本理念の実現を目指すため、同条例に基づき、策定するものです。

本県では、平成9年3月に最初の環境基本計画を策定し、平成15年1月および平成20年11月に2回の改定を行いながら、様々な環境保全施策を展開してきました。

平成20年の改定以降、東日本大震災や、新興国の経済発展などによるグローバル化の影響等により、地球温暖化、エネルギー、廃棄物、生物多様性などの環境問題が改めて注目される中、平成25年11月、環境基本計画を見直しました。

（１）計画の基本目標

計画の基本目標

前計画では、「県民の手で守り育てる美しい福井の環境」を基本目標に掲げ、県民総ぐるみで省エネ活動や自然保全活動などを進めてきました。その結果、エコファーマーの登録件数日本一（環境への負荷が少ない農業の広がり）や生き物冬水田んぼなど、少しずつではありますが、その成果も見え始めてきました。

また、平成25年9月に本県で開催されたSATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ第4回定例会合では、参加者等から、本県の里山里海湖や豊かな自然、伝統文化などが評価されました。今後も、自然や文化をはじめとした本県の環境を守り育て、世界にアピールすることを目指していきます。

美しい福井の環境を県民の手で守り育て、世界にアピール

（２）施策の展開

環境基本計画では、「計画の基本的事項」をはじめ、自然環境、地球温暖化、循環型社会、水・大気環境、環境教育の各分野において、計画期間中に特に力点を置いて進める「重点プロジェクト」、重点プロジェクト以外の施策も含め、計画期間中に実施すべき施策を分野ごとに示す「分野別施策の展開」、巻末には、これら施策を着実に実施するための計画の推進体制等について表記しています。

第１編　計画の基本的事項
1　計画の構成
2　計画策定の背景
3　基本目標
4　計画期間
5　他の計画等との関係

第２編　重点プロジェクト
1　里山里海湖の研究・活用プロジェクト
2　地球温暖化対策推進プロジェクト
3　ものを大切にする社会づくり強化プロジェクト
4　「水を守る」プロジェクト
5　環境教育推進プロジェクト

第３編　分野別施策の展開
第１章　自然と共生する社会づくりの推進
第２章　地球温暖化対策の推進
第３章　循環型社会の推進
第４章　生活環境の保全
第５章　環境を想い行動する人づくり
第６章　横断的・基盤的な施策の推進

第４編　計画の推進
1　計画の推進体制
2　計画の進行管理
3　環境指標

（３）計画期間

平成25年度（2013年度）～平成29年度（2017年度）　５年間

2　重点プロジェクトの進捗状況

環境基本計画では、自然環境、地球温暖化、循環型社会、水・大気環境、環境教育の各分野において、計画期間中に特に力点を置いて進めるべき重点プロジェクトを掲げ、推進しています。

1　里山里海湖の研究・活用プロジェクト【自然環境課】

人と自然が適切に関わることによって維持されてきた里山里海湖（さとやまさとうみ）の自然環境は、経済発展に伴う開発や過疎化・高齢化による人の営みが失われることにより荒廃し、里山里海湖に生息してきた動植物の減少が進んでいます。里山里海湖の研究・活用プロジェクトを通して、このような問題を改めて見直し、どう解決すべきかを考え、行動することで、全国に誇れる本県の里山里海湖の魅力を次の世代に伝えていきます。

①里山里海湖研究所の開設

県では、平成25年度に行われた「SATOYAMA国際会議2013 in ふくい*1」を契機として、同年10月、若狭町の三方湖畔に「福井県里山里海湖研究所」を設置しました。本県の里山里海湖の恵みの価値を再認識し、生物多様性の確保と科学的な知見をもって、美しい風土を残しながら地域のみんなが元気になることを目指しています。

「福井県里山里海湖研究所」外観

②里山里海湖の魅力を再発見するために

研究所は、本県の生物・生活・景観の３つの多様性を育むために、「研究」「教育」「実践」を３つの大きな柱に、子どもから大人までが気軽に集う「地域を元気にする実学研究」の拠点として、積極的に活動しています。

ア　研究分野

研究所では、４人の研究員が中心となり次の分野に関する研究を進めています。

◯環境考古に関する分野

年縞をもとに、過去の気候と人の暮らしの関わりを解明し、これからの生活に活用する研究

◯保全生態に関する分野

県全域にわたる、里山里海湖の生物多様性の保全・再生および生態系サービスの分析評価に関する研究

◯里地里山文化に関する分野

県内を中心に、里に伝わる伝統（農法、漁法等）、文化、習俗等の資料を収集、整理し、県民の生活に活かす研究

◯森里海湖連環に関する分野

県内を中心に、森と海湖の生態系のつながりに関する研究

また、平成26年８月30日（土）・31日（日）の両日、国内とドイツの研究者が研究成果を発表する「日独SATOYAMA研究フォーラム」を、三方青年の家（若狭町）と福井県国際交流会館（福井市）で開催しました。約200名の県民の参加のもと、人口減や耕作放棄地等里山を取り巻く共通の悩みを抱える両国の研究者が、その克服に向け里山を多面的な機能を備えたインフラとして捉える視点が示されるとともに、里山里海湖研究所研究員が今後進める研究について発表を行いました。

「日独SATOYAMA研究フォーラム」の様子

*1 SATOYAMA国際会議2013 in ふくい：平成25年９月に、人の営みと自然とが調和し共生する社会を目指すための国際会合「SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ第４回定例会合（IPSI-4）」の本県開催に併せて行われた国際会議。28の国と地域から研究者等が本県に集結し、県民の参加のもと、フォーラムやコウノトリが舞う里づくりを進める越前市白山地区、ラムサール条約指定湿地に登録されている三方五湖を視察したエクスカーションなど、様々なイベントが行われ、県民の里山里海湖に対する保全意識がより一層高まるとともに、本県の里山里海湖の魅力と、保全再生を進める人々の活動が国内外に広く発信されました。

イ　教育分野

研究所では、「里山里海湖を体感し、感性を育む」ために次のような事業を行っています。これにより、里山里海湖の魅力を子どもたちに伝えるとともに、地域の保全再生を担うリーダーを育てていきます。

○里山里海湖学校教育プログラム

小学校高学年の道徳や総合学習の時間に活用できる学校教育プログラムを作成し、全小学校へ配布

○身近な生き物生息環境調査

県内８つのモデル校において、継続して地域の生き物や気候を調査することで、その変化を体感し、自然環境を守る意識を育むための調査

○サマースクール

夏休みを利用した自然体験型イベントを県内の自然体験施設と連携して実施し、子どもたちが実体験できる場を拡大

○「SATOガール・SATOボーイ」育成プロジェクト

若者などを対象に農業、林業、漁業等の実体験を通して里山里海湖の魅力・保全の大切さを学ぶ講座を６回シリーズで実施

○里山里海湖リーダーズカレッジ

地域で頑張る自然再生団体等のレベルアップを図るため、リーダー育成の連続講座を実施

○出前講座

研究員自らが小中学校や公民館など地域に出向き、地域の環境保全や再生を支援する講座を開催

◀里山里海湖学校
教育プログラム

里山里海湖リーダーズカレッジ

ウ　実践分野

里山里海湖の保全・再生を頑張る地域や団体を応援し、共に活動することで、里山里海湖を次世代へ継承していきます。

具体的には、地域で活躍する達人を「ふるさと研究員」として認定し、研究所と一体となってその技や生業の意味合いの伝承を図っていきます。

また、研究所に親しみを感じてもらえるように、ミニウォークや、薪割り、竹炭作りなど、里の知恵や恵みを体験できるイベントを随時開催しています。

③「学びの森」の設置

研究所では、「研究」「教育」「実践」のモデルフィールドとして、平成26年６月に若狭町気山に「福井ふるさと学びの森」を設置しました。

子どもたちが山菜取りや山遊び、間伐など、里山での体験活動を通して、人の暮らしと里山との関わりを感じるイベントの場として活用していきます。同時に、人の手が入ることによる里山の変化についても調査していく予定です。

「福井ふるさと学びの森」オープニング

④「SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ第５回定例会合（IPSI-5）」への参加

県は、平成26年10月４日～６日に韓国の平昌（ピョンチャン）で開催された「SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ第５回定例会合（IPSI-5）」に参加しました。

最終日の６日に行われたサイドイベントにおいて、本県での里山里海湖研究所の活動、三方五湖自然再生協議会やコウノトリの野生復帰などの本県の里山保全再生活動を、各国からの参加者約150名に対しプレゼンテーションを行い、本県での取組みを世界へ発信しました。

２　地球温暖化対策推進プロジェクト【環境政策課】

我が国で排出される温室効果ガスの約９割はエネルギー起源のCO_2であるため、本県では、エネルギーの「創り方」と「使い方」に着目した地球温暖化対策推進プロジェクトを進めています。

「創る」際にCO_2を出さないエネルギーである再生可能エネルギー（再エネ）については、再エネ事業化を目指す地域の、準備・検討過程を支援しており、「使い方」に関してはエネルギー消費の大部分を占める運輸部門と産業部門への対策として、車への依存度が高い本県の交通手段の多様化、省エネ余地の大きな業種に的を絞った業種別省エネ対策を推進しています。

①１市町１エネおこし

県では、エネルギー源の多角化を、地球温暖化対策やエネルギー供給力の強化だけでなく、地域経済の活性化（地域おこし）にも役立てるため、「１市町１エネおこし」を進めています。平成26年度は県内７つの地域（敦賀市、小浜市、勝山市、鯖江市、永平寺町、池田町、高浜町）を選定し、再生可能エネルギーの導入を検討する地域協議会の運営に対する財政的・技術的支援を行っています。また、これらの協議会相互の情報共有を図り、専門家等からアドバイスや事業化支援情報の提供を受ける目的で「ふくい　まち・エネおこしネット協議会」を設置しており、平成26年度は３回の協議会を開催し、再生可能エネルギーの事業化に向けて、検討を進めてきました。

平成24年度から始まった「１市町１エネおこし」では、県内17全ての市町で、太陽光や小水力、雪氷熱、木質バイオマスといった地域に賦存するエネルギーの事業化に向けた検討が始まりました。地域に役立つ再エネ導入の取組みを中心に、今後も導入を推進していきます。

1市町1エネおこしの取組み状況

②自転車利用などによる低炭素の街づくりの推進

短距離の車移動を抑制するための「自転車で３キロ運動」や自転車の率先利用などを宣言する「福井バイコロジスト」宣言の拡大、駅やバス停に併設する駐車場等の整備やコミュニティサイクル導入への支援を実施しています。また、カフェバイクなどのおもしろ自転車の試乗会の実施、県内の企業団体などへの貸出しを行い、自転車利用の関心を高めています。

さらに、県内の電車・バスのダイヤや運賃、運行ルートについてパソコンや携帯電話から簡単に検索できるWebサイト「ばす・でんしゃナビふくい」を運用し、公共交通機関の利用促進に役立て、交通手段の多様化を図っています。

また平成26年度は、自転車観光の専門家を２市町（福井市、越前市）に派遣し、自転車事業をコンサルティングすることにより、市町の自転車事業の活性化を図りました。

③業種別の特徴に着目した省エネ活動の推進

県内の事業所で、これまで省エネに取り組む機会の少なかった業種を対象に、省エネ活動の取組みを支援しています。

平成26年度は、クリーニング業、菓子製造業の２業種において、省エネ研究会を開催しています。

内容は、業種に特化した省エネ勉強会の開催、参加事業所の省エネモデル診断の実施です。また、診断を踏まえて見つかった省エネポイントの説明会も開催し、診断を受けなかった事業所も省エネに取り組めるように進めています。

３　ものを大切にする社会づくり強化プロジェクト【循環社会推進課】

県民一人ひとりが「ものを大切にする社会づくり」に自主的に取り組み、「ものを長く使う」、「ごみにせずにリサイクルする」など、大切な資源を有効に活用し、「ものを大切にする」ライフスタイルが定着した社会づくりを進めています。

①ものを大切にする社会づくりの強化

子どもたちに、おもちゃの修理を通して、ものを大切にする気持ちを伝えるため、各イベント会場などで、おもちゃの病院を開催しています。

「おもちゃドクター」によって修理されたおもちゃを受け取った子どもたちは、早速動かしてみるなど一層愛着が増したようです。

平成26年度からは、各地域のおもちゃの病院に高い知識と技術を持った〝おもちゃの修理マイスター〟を新たに育成しています。

おもちゃドクター養成講座

おもちゃの病院

②「まごころ古本市」の開催

本を通して良いものを長く使うことを伝えるため、各イベント会場等で、県民の皆様から譲り受けた古本を販売する「まごころ古本市」を開催しています。

また、平成25年度よりＮＰＯなどの民間団体による古本市の定期開催が行われています。

まごころ古本市

③親子の服のリメイク体験教室

修理してものを大切に使うことの良さを知ってもらうため、平成26年９月（坂井市）と11月（おおい町）に親子を対象にした、服のリメイク体験教室を開催しました。

リメイクに関する知識や技術を学び、参加の皆様が持参した服や材料をもとに、思い思いの服にリメイクしました。

大勢の方がこのリメイク体験教室に参加し、ものを大切にする意識の高さが伺われました。

親子の服のリメイク体験教室

④ふくいの修理屋さん

県内全域を対象に、日用品の修理を行っているお店の店名、品目、内容、連絡先等の情報を収集し、平成21年度から、ホームページで「ふくいの修理屋さん情報」として公開しています。

靴、かばん、家具など19業種446店舗が登録されていますので、修理でお困りの際にご利用ください。

ふくいの修理屋さん　検索

⑤おいしいふくい食べきり運動の展開

全国で初めて食品ロス削減運動に取り組んだ本県において、食べきり運動全国大会を開催し、全国に本県の食べきり運動をアピールします。

また、平成25年度からは福井県連合婦人会と連携し、保育園での親子学習会や地域イベントでの幅広い世代への普及啓発を行っているほか、ホテルでの食べ残しを減らすための宴会メニューの検討を行うなど、様々な団体と協力し、運動を展開しています。

4 「水を守る」プロジェクト【環境政策課】

年間を通じて降水量に恵まれ、湧水・地下水も豊富な本県においては、県内水道の約58％が地下水を水源としており、また、県内各地で、古くからの湧水が今も市民に利用されているなど、県民と水との間に、とりわけ深い関係が築かれてきました。県民一人ひとりが、今一度、「いのちの源」である「水」の大事さを再認識するため、県民の参加を得ながら、「水を守る」プロジェクトを推進しています。

①「せせらぎ定点観測」事業

河川護岸や農業用水路の整備による親水機会の喪失や、工場・生活排水による水質の劣化などにより、県民、特に子どもたちの住んでいる地域の水との関係が希薄になっており、今後「いのちの源」である水の保全への関心が低下し、水質等がさらに悪化することが懸念されています。

このため、県内の小学生が地域の河川や用水路をフィールドに水質や水生生物、景観などを調査することにより、地域の水環境に対する関心を高め、将来にわたって自発的な水環境の保全活動を促すことを目的として「せせらぎ定点観測」事業を行いました。

平成26年度は、有識者の意見を踏まえながら、県内においてモデル河川を設定し、その流域にある小学校の児童が、水質や生き物、景観などを観測した後、報告会を開催しました。

「せせらぎ定点観測」事業実施校および河川

実施河川	実施校
南　川（小浜市）	今富小学校、口名田小学校、中名田小学校
赤根川（大野市）	下庄小学校、小山小学校

せせらぎ定点観測の様子（赤根川）

②ふくいふるさとの音風景

自然から聴こえるせせらぎやさえずり、そこに住む人々の方言、祭りの活気など、身近な音から地域の環境を見つめ直してもらい、環境保全への意識向上を図るため、スマートフォンアプリを使った音源とその風景写真（音風景）の投稿を県民に呼びかけました。

音に耳を傾ける楽しさや、音風景の投稿方法などを説明するワークショップを県内４か所で開催したほか、投稿された福井の音風景を紹介する専用ホームページを新たに開設し、福井の美しい自然や優れた文化等の環境の素晴らしさを県内外にアピールしました。

③「ふくいのおいしい水」の広報

県では、水質基準および管理基準を満たす県内34か所の湧水等を「ふくいのおいしい水」として認定し、県内の優れた水環境を発信しています。

平成26年３月に刷新した「ふくいのおいしい水」パンフレットでは、それぞれの湧水が持つ多様な自然、景観、歴史、文化、現在の利用形態などを紹介しており、好評を得ています。

「ふくいのおいしい水」パンフレット

また、平成26年度からは、これまで地域の人々が湧水とともに歩み、築き上げてきた歴史や文化を今後継承し、保存していくため、専門家を認定地域に派遣し、地域が持つ課題の抽出、地域の実情に応じたアドバイスを行い、湧水等を活かした地域活動を支援しています。

専門家派遣による地域支援の様子

５　環境教育推進プロジェクト【環境政策課】

緑があり、水があり、ふるさとを守る地元の人たちのつながりがしっかりと息づいている―そんな本県は、自然の仕組みを知り、また、如何にすれば人と自然とが共生していけるかを考える上で、理想的な教材に恵まれた所だということができます。

そこで、本県の自然を代表する里山里海湖の素材を活用した体験機会の提供をはじめ、人とのつながりを活かした地域環境学習の継続的な実施、環境美化意識のさらなる定着等を図るため、次のような環境教育推進プロジェクトを推進しています。

①季節を感じる原体験機会の提供

子どもたちをはじめ、自然にふれあう原体験が少ないとされている世代の保護者にも、本県の豊かな里山里海湖に親しみ、環境保全に対する関心・意識を高めてもらうため、平成26年度は「親育ち・子育ち環境力向上事業」を行いました。この事業を通じて、県内の保育園（所）・幼稚園が行う、未就学児とその保護者が参加する形での、四季折々の季節イベントや、里山里海湖の資源を活用した活動を支援しました。

親子での自然体験活動の様子

②地域環境コーディネーターの育成

県では平成26年度から、地域での環境学習や自然体験活動の活性化や継続的な実施のため、環境学習会を企画運営していく人材を育成する、地域環境コーディネート力向上事業を実施しています。10月、11月にかけ、「地域が元気になる！環境学習連続講座」と題し、これまでの地域活動に環境という切り口で学びをプラスする企画の作成や、今ある地域環境に新たな気付きを与えるためのまち歩きマップ作りなどを行いました。

公民館職員、地域活動従事者、環境に関心の高い方を中心に、嶺南、嶺北会場において、延べ90名が学習しました。

環境学習連続講座時のまち歩きマップ作りの様子

③ＳＮＳを活用したゴミ拾い活動の推進

県では、日常生活の中で楽しくできる気軽なゴミ拾い意識の向上を図るため、普段評価されることの少ない県民一人ひとりの自主的なゴミ拾い活動を、ＳＮＳを活用して情報共有することで見える化したホームページ「クリーンアップふくい～拾ってみねの、ふくいのゴミ～」を平成26年９月に開設しました。

このホームページでは「ピリカ（特集参照）」を通じて報告のあった清掃活動のうち、県内の清掃活動のみを抽出し、活動者数や拾われたゴミの数、活動状況をリアルタイムで表示しています。

平成26年４月から１月までの間、県内11,500人により270万個ものゴミが拾われています。

「クリーンアップふくい～拾ってみねの、ふくいのゴミ～」ホームページ画面

3　環境指標の進捗状況

環境基本計画では、具体的施策の達成状況を把握するため、環境指標を設定しています。

1　自然と共生する社会づくりの推進

No	指　標　名	基準年度（H24年度）	実　績（H25年度）	目標年度（H29年度）
1	自然再生支援隊登録者数	71人	72人	100人
2	生き物百葉箱の参加団体数	89団体	96団体	120団体
3	生き物ぎょうさん里村認定集落数	22集落	30集落	40集落
4	県内の自然再生協議会数	1団体	2団体	2団体
5	遊休地を活用したビオトープを整備する団体数	—	11団体	30団体
6	農村における地域共同の環境保全向上に取り組む集落数	895集落	912集落	920集落
7	「多自然川づくり」の整備延長	54km	55km	59km
8	ため池の外来魚駆除等モデル地区数	5地区	10地区	10地区
9	山ぎわの見通し改善を行う集落数	510集落	531集落	730集落
10	針広混交林化の面積	20ha	26ha	50ha（H31）
11	重要伝統的建造物群の保存	117棟	133棟	174棟

2　地球温暖化対策の推進

No	指　標　名	基準年度（H24年度）	実　績（H25年度）	目標年度（H29年度）
1	温室効果ガス排出量	8,652千t（H22）	8,830千t（H23）	—
2	温暖化防止実行計画の策定市町	14市町	14市町	17市町
3	業種別省エネ研究会の設置数	—	—	5研究会
4	スーパーや家電小売店等における省エネイベント等の実施回数※	—	29回	120回
5	電気自動車の導入台数	366台	663台	1,800台
6	電気自動車急速充電器の設置数	24台	26台	40台
7	カー・セーブ参加企業・団体数*1	213企業･団体	231企業･団体	250企業･団体（H26）
8	「福井バイコロジスト」宣言者数*2	754人	1,050人	1,000人（H26）
9	間伐材生産量	72千㎥	75千㎥	82千㎥（H31）
10	「1市町1エネおこし」による再生可能エネルギー導入市町数	2市町	3市町	17市町
11	防災拠点への再エネ設備導入数	119施設	135施設	150施設

※印の指標の目標値は、計画実施期間（H25～H29）における累積の数値です。
＊1～2については、「クルマに頼り過ぎない社会づくりアクションプラン」に基づくこととし、H27以降の目標は計画期間終了時に改めて設定します。

３　循環型社会の推進

No	指　　標　　名	基準年度（H24年度）	実　　績（H25年度）	目標年度（H29年度）
1	一人一日当たりごみ排出量*1	912g（H23）	908g（H24）	840g（H27）
2	一般廃棄物のリサイクル率*2	18.5％（H23）	17.8％（H24）	25.7％（H27）
3	一般廃棄物最終処分量*3	30千ｔ（H23）	29千ｔ（H24）	27千ｔ（H27）
4	産業廃棄物発生量*4	3,024千ｔ（H20）	3,024千ｔ（H20）	3,050千ｔ（H27）
5	産業廃棄物のリサイクル率*5	51.3％（H20）	51.3％（H20）	52.9％（H27）
6	産業廃棄物最終処分量*6	74千ｔ（H20）	74千ｔ（H20）	52千ｔ（H27）
7	雑がみ回収実施市町数	11市町	11市町	17市町
8	県リサイクル認定製品の販売額	8,744百万円	9,874百万円	11,000百万円
9	「食べきり運動」の県民認知度	40％	51％	60％
10	10ｔ以上の不法投棄の新規発生件数	4件	3件	0件

＊1～6については、「福井県廃棄物処理計画」に基づくこととし、H28以降の目標は計画期間終了時に改めて設定します。

４　生活環境の保全

No	指　　標　　名	基準年度（H24年度）	実　　績（H25年度）	目標年度（H29年度）
1	海水浴場の「適」達成率	100％	100％	100％
2	北潟湖・三方五湖のCOD環境基準達成率	56％	38％	63％
3	下水道の処理人口普及率	74％	75.6％	79％
4	新たな地下水汚染地区数	―	0地区	0地区
5	地盤沈下地域の沈下量	3mm	3mm（H24）	0mm
6	光化学スモッグ注意報発令回数※	0回	0回	0回
7	PM2.5測定局数	6局	9局	10局
8	水質事故件数	14件	8件	0件
9	「せせらぎ定点観測」の実施校数※	―	―	30校
10	「ふくいの音風景50選」の活用イベント数※	―	―	30回
11	「ふくいのおいしい水」保全活動数※	18地区	34地区	35地区
12	「水守」認定団体数	―	―	20団体

※印の指標の目標値は、計画実施期間（H25～H29）における累積の数値です。

５　環境を想い行動する人づくり

No	指　　標　　名	基準年度（H24年度）	実　　績（H25年度）	目標年度（H29年度）
1	保育園および幼稚園が行う親子自然体験の実施園数※	―	―	40園
2	大学等における環境教育関連講座等※	―	―	3講座
3	環境教育を学校教育計画に位置づけている小中学校数	115校	279校	300校
4	SNSを活用したきれいなまちづくり活動参加回数※	―	―	100,000回
5	クリーンエリア宣言事業所数	1,364事業所	1,365事業所	2,000事業所
6	みどりネットアクセス件数（トップページ）	94,856件	109,730件	95,000件

※印の指標の目標値は、計画実施期間（H25～H29）における累積の数値です。